

青年就農給付金／農業次世代人材投資資金を活用した先輩農業者のすがた(研修を受けて就農されたみなさん)

【準備型】

採択年度	研修内容	水田	野菜	果樹	花き・花木
令和3年(2021年)			秋田県 藤澤 大和 さん 長野県 工藤 奈津美 さん 滋賀県 川崎 香 さん	山口県 金子 雅人 さん	
令和2年(2020年)		山形県 匿名希望※ さん	栃木県 島野 優一 さん 東京都 赤塚 功太郎 さん	岩手県 大櫻 裕之 さん	
令和元年(2019年)			神奈川県 飯野 広士 さん 高知県 埜下 真樹 さん 大分県 平井 聡 さん	愛知県 杉本 泰祐 さん	
平成30年(2018年)			宮城県 齋藤 実 さん 山形県 齊藤 勝久 さん 千葉県 若菜 紘幸 さん 京都府 角田 忠司 さん 大阪府 西野 朱樹 さん 島根県 匿名希望 さん 福岡県 白谷 大吉 さん	佐賀県 原田 諭 さん 岡山県 坂口 雄幸 さん	
平成29年(2017年)			広島県 小山 裕士 さん 宮崎県 川添 圭路 さん	埼玉県 松山 健吾 さん	
平成28年(2016年)		新潟県 本間 恭介※ さん	鹿児島県 山田 豊 さん	香川県 岡田 凌 さん	
平成27年(2015年)				愛媛県 野本 昌平 さん	
平成26年(2014年)			茨城県 中村 敦 さん	富山県 高桑 健 さん	
平成25年(2013年)					北海道 齊藤 義也 さん
平成24年(2012年)			群馬県 永田 亮 さん		

※ 複数の類型について研修

本間 恭介さん (32歳)

新規就農を志した経緯・背景

幼少期に父の実家の農作業の手伝いを通じて、農業・自然に関心をもった。建築業に就職したが、農業への思いを捨てきれず離職し、露地野菜の農業のアルバイトに4年従事。佐渡在住の祖母が預けていた農地を不作付けにすると口にしたことをきっかけに独立就農を決意した。

研修中に工夫したポイント

- 県やJA等の関係機関が主催する栽培技術講座や交流会に可能な限り参加し、栽培技術の習得や人脈の形成を図った。
- 関係機関と相談を重ね、経営計画の作成、農地取得や事業活用など就農準備に向けた情報収集を行った。
- 研修先からあっせんしてもらう予定の農地を、経営開始に向け研修中に自ら栽培管理を実施。
- 研修先の代表者と自身の栽培技術及び経営方針の考え方について意見交換を重ね、研修終了後にも気軽に相談できる信頼関係を築くとともに、経営開始に必要な機械設備の借受が可能な関係を構築。

研修先：農業法人

研修内容：水稻・果樹（加工等）

資金の活用例 生活費

（所得確保が難しい
研修中の生活費に充
てることができた）



今後の取組

所得向上及び地域の農地の維持を目指し、規模を拡大していく。

地域農業の維持のために法人化にも取り組みたい。

就農に向けた推移と今後

研修 (H29.3~31.2)

- 水稻栽培管理技術を中心に研修。
- 今後、自らが耕作する予定のほ場管理を行った。
- 若手農家等の交流会等へ参加。
- 生計維持に資金を活用。



就農開始 (H31~)

- 水稻 約600a
露地野菜 約60a
- 経営開始型に移行。
 - 祖母の知人との直接交渉や研修先からのあっせんで農地確保。
 - 初期投資を抑えるため補助事業活用やレンタル等で機械確保。



現在 (就農5年目)

- 水稻 約1800a
露地野菜 約30a
- 農地の拡大は、初期は近隣の農家から、後半は近隣農家からの紹介により順調に拡大してきている。



今後の目標 (就農10年後)

- 水稻 約3000a
露地野菜 約60a
- 拡大と合わせて農地を集約し、効率的な栽培管理により収量・品質の向上に努める。
 - 雇用を契機として法人化及び園芸の拡大を図る。

高桑 健さん (47歳)

新規就農を志した経緯・背景

父が果樹農家をしていたので、私も与えられた環境を活かし、地に足のついた仕事をしたいと思った。また母が、ブドウを栽培し、販売している様子を見て、「自分で作って他人に食べてもらう仕事」に憧れるようになった。農家をしている友人が、最新品種のブドウを育てて、販売している様子を見て、自分も挑戦してみたいと思った。

研修中に工夫したポイント

- ・施設の施工や修理を自分で工夫して行くと、災害時や経済的に有利になることを知った。施工技術を身に付ける努力をした。
- ・食味の向上は慣行栽培の技術だけでは足りない先輩から学んだ。有機栽培技術や土づくり、植物の生理の学習に時間を割いた。
- ・中古資材と中古機械を買い集め、就農資金の圧縮と、就農のスタートダッシュを目指した。

研修先：先進農家

研修内容：ぶどう、干し柿

資金の活用例

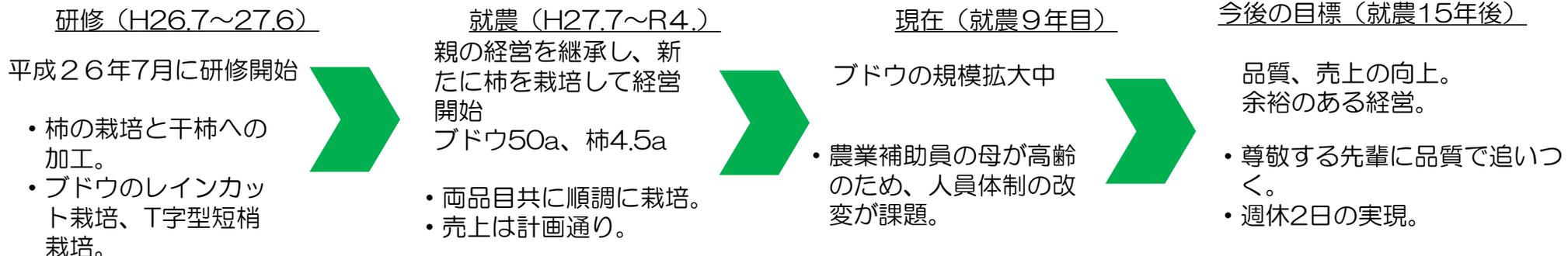
農業機械
農業施設
加工機械



今後の取組

ブドウと柿の栽培技術を向上させる。ブドウの加工や干柿の二次加工により、2級品を減らす。直売所を整備する。販売シーズン限定のカフェなどを開設して、お客様が楽しめる場所を提供する。

就農に向けた推移と今後



杉本 泰祐さん (30歳)

研修先：里親農家
研修内容：果樹（桃・梨）

新規就農を志した経緯・背景

大卒後、事務職として勤務していたが、直接お客様の顔が浮かばない状態で仕事をしており、仕事の目的ややりがいを持ちにくかった。近所にブドウの栽培農家があり農業は身近な存在で、また自分の憧れを抱いている仕事であった。今後どのような仕事をしていきたいか考えた際、自分もおいしい果物を作って食べてもらい、お客様の笑顔を作れる仕事をしたいと思い、就農を決意した。

資金の活用例

就農に向けた運転資金等に活用した。



研修中に工夫したポイント

- ・独立・自営就農を目的に研修し、里親農家から地域に根ざした栽培技術を習得した。
- ・普及指導センターが主催するセミナーに参加し農業申告の決算処理に関する知識を身につけた。
- ・農地や中古機械に関する情報を積極的に収集した。

今後の取組

- ・成木が増えた時に備え、パートを増員し作業施設や休憩施設を整備する。
- ・異常気象でもしっかりと収量を確保できるようにする。
- ・パートさんに任す仕事、その手順を考える。

就農に向けた推移と今後

研修（R1～2）

- ・1年目：里親農家での栽培実習及び県大のニューファーマーズ研修を受講。
- ・2年目：里親農家での実習及び自己管理ほ場での作業体験研修。

就農準備（R1～2）

- ・農地の確保
機械の確保
- ・研修機関及び里親農家の助言による農地借入準備
- ・業者や先輩農家から中古機械に関する情報を収集。

現在（就農3年目）

- ・独立・自営就農
桃118a、梨22a
- ・JA桃部会、梨部会に加入。
- ・パートを1名雇用。
- ・主に桃6品種、梨6品種を栽培。

今後の目標（就農4年以降）

- ・梨の早期成園化。
- ・桃の収量増加と等級の底上げ。
- ・桃、梨とも作業効率の良さ、高い収益性を目指す。
- ・初期投資が終わってくるので、経営を安定させていく。

川崎 香 さん (34歳)

研修先：農業大学校

研修内容：施設野菜 (栽培管理、農業経営 等)

新規就農を志した経緯・背景

元々、農業に興味があり情報を収集していたが、長浜市役所が募集していた「ミニトマトの研修制度」に応募して参加。この研修では、ミニトマトの栽培管理に加え、メロンの栽培管理の研修も行い、野菜栽培の面白さ、奥の深さを感じ、より専門的に学んで、農業経営したいと決意し、滋賀県立農業大学校に入校。また、農業次世代投資資金準備型があることも背中を押してくれた。

資金の活用例

- 研修中の生活資金
- 自己研修に使用する教材の購入



研修中に工夫したポイント

- 主品目（ミニトマト、メロン）の栽培技術習得に加え、様々な品目の栽培技術について学んだ。
- 野菜経営におけるコストや初期設備投資等について学び、就農計画の作成に着手できた。
- ハウス建設や少量土壌培地耕システムの構築について学ぶことができた。
- 卒業生の先輩農家にハウスの自家施工等のアドバイスをもらった。

今後の取組

軌道に乗り始めた経営をより充実させるため規模拡大（増棟）する。また、完備している直売所の充実を目指し、味にこだわった野菜をこれまでより供給量を増やすとともに加工品の開発にも着手したい。さらに、味の追求だけでなくパッケージのデザインなどにもこだわって、1人でも多くの“ファン”を増やしていきたい。また、地域貢献という意味合いも込め、雇用を推進する。

就農に向けた推移と今後

研修 (R3.4~R4.3)

少量土壌培地耕システムによるミニトマト、メロンの栽培管理、農業経営に関する知識

- 令和3年4月に研修開始。
- 大型特殊免許取得、小型車両系建設機械特別教育修了。
- 準備型の資金や貯金で生活を維持。

就農準備 (R4.4~R4.7)

- 農地確保
- ハウス建設、システム構築

- 農地中間管理機構から農地借入。
- 業者と建設ハウスの調整。
- 運転資金の一部に準備型の資金を活用。
- システム構築（自家施工）
- 青年等就農計画の認定。

現在 (就農3年目)

少量土壌培地耕システムによるミニトマト、メロン栽培
ハウス2棟 (750m²)

- 直売所完備し、庭先販売を中心とする。
- 質と量の両面にこだわりお客さんに喜んでもらうことをモットーとする。

今後の目標 (就農8年後)

- 規模拡大（増棟）し、より充実した経営を目指す。
- オンラインショップを開設し、より多くのお客さんに供給する。
- 雇用労働力の導入。
- 6次産業化（トマトジュース、メロンジュース）の取り組み。

角田 忠司 さん (34歳)

研修先：先進農家

研修内容：施設野菜・露地野菜

新規就農を志した経緯・背景

東京で開催されていた「新・農業人フェア」で京都での農業に惹かれるようになり、京都府における就農支援イベントに参加したところ、先進農家と出会い、元々独立・自営就農をしたい思いがあったため、京都府での就農に至った。

資金の活用例

- 農業機械・施設等の購入



研修中に工夫したポイント

研修終了前から、住宅の手配・農地の借受・農業用機械(施設)の取得等について、就農準備を並行して進め、円滑に就農できた。

- まずは露地栽培により、野菜の栽培等の技術・知識を学んだ。
- 独立・自営就農直後からハウス栽培にもとりかかれるよう、ビニールハウスの導入について、早期にJAに相談。
- 積極的に地域と交流を行い、地元農家とのつながりを構築

今後の取組

- 動画投稿サイトを活用し、直販につなげられるような周知・PR活動を実施予定。
- 従業員の拡充を行い、現在の農作業を効率的に行えるよう、努めたい。

就農に向けた推移と今後

研修 (H31~R2)

農作業全般
万願寺とうがらし等の栽培・収穫等

- 平成31年に研修開始。
- 栽培技術や農業機械の操作技術の習得。



就農準備 (R2)

農地や農機具、施設の整備

- 必要な農機具を準備。
- 就農後の販路を模索。



現在 (就農4年目)

万願寺とうがらし・
ねぎ・かぶ等 (27a)

- 耕作面積は27aに拡大。
- 経営開始型に移行し、農業所得は約100万円で順調に所得を拡大。



今後の目標 (就農5年後)

万願寺とうがらし・ねぎ・
かぶ等 (30a) で直販。

- 品目を絞り、収益を得られるような販売戦略を行っていく。

西野 朱樹さん (32歳)

新規就農を志した経緯・背景

- ・祖父母が奄美大島の畜産農家で、農業に憧れがあり鹿児島県の農業高校を卒業後、同県の農業大学校を卒業したが、会社員として働いていた。
- ・平成29年の台風で被災した農業者の復旧支援に行ったことがきっかけで、本格的に就農を目指すようになった。

研修中に工夫したポイント

- ・農業大学校での経験から、栽培に関する最低限の知識はあったので研修先や地域の農家がどのような一日の流れで仕事をしているのか、見て学ぶようにしていた。
- ・地域の農家のほ場へ積極的に出向き、情報交換に努めた。
- ・水なすは露地栽培も施設栽培も経験し、自身が取り組みたい農業経営の姿を明確にするよう心がけていた。ほかにも販路確保や設備投資など、目標の達成に向けた計画作成などを行うように意識しており、就農地の地域活動へも積極的に参加するようにしていた。

研修先：先進農家

研修内容：野菜（水なす、軟弱野菜）

資金の活用例

- ・研修費
- ・農業機械購入費
管理機、動力噴霧器
軽トラ、軽バン 等を
中古で購入



今後の取組

- ・作付面積の拡大、雇用による労働力確保、6次産業化（水なすの漬物加工）、スマート農業（環境制御等）の導入を通じた農業経営規模の拡大
- ・4Hクラブ活動の活性化

就農に向けた推移と今後

研修 (H30~R2)

- ・先進農家の元で研修。
- ・水なすと軟弱野菜の複合経営を学ぶ。
- ・目指す農業経営を検討。
- ・水路掃除、草刈りなど地域活動への参加。

就農準備 (R2)

- ・農地および鉄骨ハウス資材を確保。
- ・青年等就農資金を活用し、鉄骨ハウスを自身で建設。
- ・R3年度分の栽培準備。

詳細は
[こちら!](#)

現在 (就農3年目)

- ・建設した施設で水なす、軟弱野菜を栽培。
- ・労働力は本人1人のみ。
- ・4Hクラブ活動を通し、地域の若手農業者や消費者と積極的に交流。

今後の目標 (就農6年後)

- ・作付面積を拡大(20a→30a)し、水なすの定植数を増加。
- ・水なすの漬物加工に着手。
- ・自動灌水設備の導入による省力化。
- ・地域における雇用機会の創出。
- ・4Hクラブの活動の活発化。